

施工マニュアル

---

磨き仕上げ材

NSアートパレシリーズ  
デコリエ

---

デコリエの施工方法について

— 施工する前に必ずお読みください —

日本化成株式会社

# 目次

ページ

<b>1. 適用範囲</b> .....	1
<b>2. 使用材料</b> .....	1
2. 1 下地処理 .....	1
2. 2 デコリエ .....	2
2. 3 表面保護 .....	2
2. 4 その他 .....	3
<b>3. 施工方法</b> .....	4
3. 1 コンクリート・モルタル下地の場合 .....	4
3. 2 せっこうボード下地の場合 .....	7
3. 3 石材・タイル下地の場合 .....	10
3. 4 合板（木）・MDF下地の場合 .....	12
3. 5 鉄・ステンレス・FRP下地の場合 .....	14
<b>4. 表面保護</b> .....	15
<b>5. 注意事項</b> .....	15
5. 1 施工上の注意 .....	15
5. 2 安全上の注意[応急処置] .....	15
5. 3 取扱い上の注意 .....	15
5. 4 廃棄上の注意 .....	16
5. 5 保管上の注意 .....	16

## 1. 適用範囲

この施工マニュアルは、NSアートパレシリーズ・デコリエによるこて押え・こて磨き仕上げをおこなう施工方法について適用する。デコリエの標準仕様を表1に示す。

表1 標準仕様

荷姿	適用部位	適用下地	適用仕上げ	標準調合	標準塗厚	標準施工面積
15.2kg/箱 プライマー 1.2kg 粉体 10kg 混和液 4kg	内壁・床 天井等	せっこうボード、 コンクリート、モルタル、 タイル、合板、 金属等	こて押え こて磨き	プライマー 原液使用	100g/m <sup>2</sup>	約10m <sup>2</sup> /セット
				粉体 10kg 混和液 4kg	1mm	

\* 内装制限を受ける壁および天井には使用できない。

\* 汚れ防止や表面保護には、デコリエトップコートを使用する。

## 2. 使用材料

### 2. 1 下地処理

#### 2. 1. 1 下地調整材

表2に下地調整材例を示す。

表2 下地調整材例

種類	製品名	荷姿
湿式仕上材用速乾タイプ 下地処理材	NSフィラーエース	18kg/箱 (4.5kg/袋 × 4袋)
カチオン系一材型 下地調整塗材	NSカチオンワン#1	20kg/袋
カチオン系一材型 速硬下地調整塗材	NSカチオンワンQ	20kg/箱 (10kg × 2袋)
再乳化形粉末樹脂混入 速硬プレミックスモルタル	ファストベース	20kg/箱 (10kg × 2袋)

\* 各製品についての詳細は、各製品のカタログ等を参照してください。

#### 2. 1. 2 ジョイントテープ

せっこうボード・合板下地の場合、ジョイント部の処理には50～100mm幅のジョイントテープ（ガラス繊維テープ等）を使用する。

## 2.2 デコリエ

表3にデコリエのセット内容を示す。

表3 デコリエのセット内容

種類	名称	荷姿
プライマー	デコリエプライマー	1.2kg/ポリボトル
主材	粉体	デコリエ（粉体）
	混和液	デコリエ（混和液）

\* デコリエプライマーは薄めずに原液のまま使用する。

\* デコリエは混和液を薄めず原液で加え、十分に練り混ぜ使用する。

### 注意事項

- ・ 着色する場合はデコリエ（ホワイト色）に顔料を添加する。添加量は粉体に対して質量比3%（300g）を上限とする。
- ・ 顔料を添加する場合は、必ず粉体に添加し、数分間の空練りにより分散させた後、練り混ぜる。
- ・ 仕上がりの色、パターン、こて押え・こて磨きの程度は予め設計・施主等の承認を得る。
- ・ 見本板作製の際には、色の調合、塗付けや仕上げ方法を記録し、承認後の施工手順とし、承認された施工手順は厳守する。
- ・ デコリエプライマーおよび混和液は、気温40℃以下または凍結の恐れのない風通しの良い暗所に保管する。
- ・ 製造より6ヶ月以内を目安に使用する。

## 2.3 表面保護

表4に表面保護材を示す。

表4 表面保護材

製品名	荷姿	タイプ
デコリエトップコートN	20/ポリボトル	水系
デコリエトップコートU*	A	溶剤系
	B	
デコリエトップコートS	0.80/ポリボトル	

\* 製品の組合せにより表面の仕上がりが異なりますので、施工にあたっては、デコリエトップコートUの施工マニュアル等を参照してください。

## 2.4 その他

表5にその他の使用材料例を示す。

表5 その他の使用材料例

種類	製品名	製造メーカー
凝結遅延剤	デコリエ凝結遅延剤	日本化成プロダクト(株)
アク止め剤	ハイボン20デクロ	日本ペイント(株)
顔料 (セメント・石灰・ プラスター用)	マイン	(株)ヤブ原

\* デコリエ凝結遅延剤の詳細は、デコリエ凝結遅延剤の製品カタログをご確認ください。  
その他の製品についての詳細は、製造メーカーにお問合せください。

### 3. 施工方法

#### 3. 1 コンクリート・モルタル下地の場合

コンクリート・モルタル下地の場合の施工工程図を図1に示す。

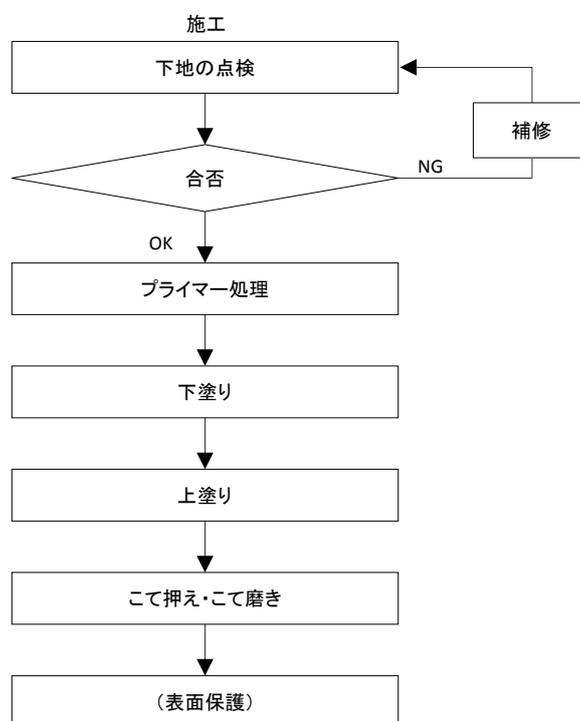


図1 コンクリート・モルタル下地の場合の施工工程図

##### 3. 1. 1 下地の点検と補修

コンクリート・モルタル下地のぜい弱層、油分等の汚れや埃がないことを確認する。

また、下地にひび割れがあり、ひび割れ幅が0.2mm未満の場合はNSポリマーミックス#15を塗る。0.2mm以上の場合にはUカット処理し、NSポリマーミックス#30により補修する。下地の不陸や精度不良が著しい場合も、事前に補修をおこなう。

下地は十分に乾燥させる（含水率10%以下）。乾燥の目安は、モルタル下地の場合、塗付け後2週間以上の養生をおこなう。

**\* 下地の精度は2mにつき1.5~2mmを目安とする。**



下地の不陸や精度不良が著しい場合、事前に補修をおこなう。



養生後

プライマー処理工程へ

##### 3. 1. 2 プライマー処理

デコリエプライマーを下地に標準塗布量（100g/m<sup>2</sup>）塗布する。デコリエプライマーは薄めず、必ず原液で使用する。



デコリエプライマーを刷毛またはローラーを用いて全面に塗布する。

\* 全面に均一に塗布する。



乾燥後

下塗り工程へ

### 3. 1. 3 デコリエの塗付け

#### (1) 下塗り

デコリエプライマーの塗布乾燥後、下塗りをおこなう。下塗りは、下地面との接着を良くするために、こて圧をかけて下地に擦り込むように塗り付ける。塗付け後、磨き後の模様を出す場合は、凹凸にパターンを付ける。



デコリエを下地に馴染ませるように塗り付ける(0.5~1mm厚)。

\* 下地を全て隠蔽するようにくまなく塗り付ける。



直ちに

上塗り工程へ

#### 注意事項

- ・ 上塗りまでのインターバルは、下塗りの締まり具合により適宜見定める。
- ・ パターンの凸部は1mm以内とし、荒々しいパターンは付けない。

#### (2) 上塗り

下塗りの締まり具合を見計らい、上塗りとしてデコリエを塗り付ける。塗厚は、下塗りと上塗りの総塗厚が1mm程度となるようにする。



デコリエを所定の塗厚さになるように塗り付ける。  
締まり具合を見ながらこて押さえをおこなう。

\* なるべく均等に塗り付けることで、こて押さえが一樣になる。

\* こて押さえの方法は予め決定した手順でおこなう。



硬化後(20℃で1~2日)

研ぎ・目つぶし・みがき工程へ

#### 注意事項

- ・ 施工面の塗継ぎは作らないようにする。作業を一旦止める場合は、出隅や入隅等の面が変わる部分に設定する。
- ・ 仕上がりの表情が変わるため、大幅な手直しは避ける。

### 3. 1. 4 磨き

こてまたは機械により、承認された施工手順で磨きをおこなう。バフを掛けると更に光沢が増した仕上がりとなる。磨きのタイミングは、こて押え後12時間程度が目安となるが、環境条件等により異なるため、適宜調整する必要がある。

#### 注意事項

- ・ 仕上がりの表情が変わるため、大幅な手直しは避ける。
- ・ デコリエはセメント系で構成されているため、環境条件等によって白華が発生する可能性がある。必要に応じて施工時に採暖を取るなどの対策を講じる。

### 3. 2 せっこうボード下地の場合

せっこうボード下地の場合の施工工程図を図2に示す。

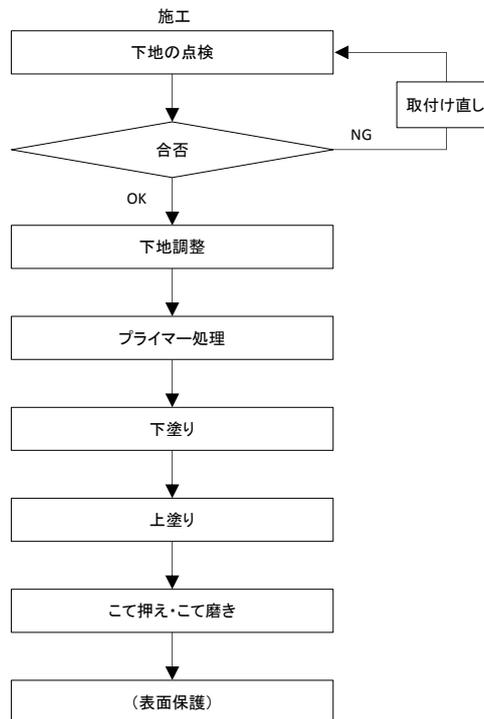


図2 せっこうボード下地の場合の施工工程図

#### 3. 2. 1 下地の点検と下地調整

##### (1) 下地の点検

せっこうボード下地の取付けは建築工事標準仕様書・同解説 JASS 26〔内装工事〕5節5.2（壁張り工事）に基づきおこなう。せっこうボードは厚さ15mm以上の1枚張りまたは厚さ9.5mmと12.5mmの2枚張りが望ましい。ただし、下地の種類、取付け方法に関わらず留付け間隔は表6に従う。また、デコリエの施工前に下地を手で押し、下地が動かないことを確認する。上記作業を怠ると、施工後にクラックが発生する可能性が高くなる。また、**GL工法での取付けは不可**とする。

せっこうボード下地への施工は、取付けに不具合および不陸がないことを確認し、不具合がある場合には取り付け直す。また、表面の異物を除去、清掃する。

表6 留付け間隔

留付け間隔 (mm)	
周辺部	中間部
100程度	150程度

### 注意事項

- ・ せっこうボードはJIS A 6901 : 2014〔せっこうボード製品〕に規定するせっこうボード（GB-R）または強化せっこうボード（GB-F）を使用する。また、ドリリングタッピンねじでしっかりと固定されていることを確認する。
- ・ 巾木等、木部との取り合い箇所は、木部に市販のアク止め剤等を塗布して事前に汚染防止処理をおこなう。

## （２）ジョイント処理

NSフィラーエースを使用してジョイント部の処理、出隅・入隅の処理をおこなう。

### ジョイント部の処理



全てのジョイント部にジョイントテープを一枚貼り付ける（ベベルエッジおよびスクウェアエッジ）。



ジョイント部をNSフィラーエースで充てんし、ジョイントテープを固定する。

- \* 乾燥したことを確認して次工程（プライマー処理）に移る。
- \* 厚く付け過ぎると凹凸が上塗りまで残る。
- \* 約15cm幅で塗り付ける。

### 出隅・入隅の処理



（出隅）

ジョイント部にジョイントテープを貼り付けた後、隙間をNSフィラーエースで充てんし、ジョイントテープを固定する。

- \* ボードの端部（せっこうボードの切り口）には十分にNSフィラーエースを塗り付ける。
- \* 出隅はコーナー定木を設置し、保護するとよい。



（入隅）

### (3) 下地調整

ジョイント処理後、下地調整としてNSフィラーエースをせっこうボード下地全面に塗り付ける。



NSフィラーエースを約1mm厚にむらなく塗り付ける。

\* 不陸が残らないようむらなく全面に塗り付ける。



しまり具合を見計らい、金ごてで表面のこてむらをとる。

\* ジョイント部にわずかな不陸があっても、表面の仕上がりに影響するため、十分に注意する。



乾燥後

プライマー処理へ

#### 注意事項

- ・ ジョイント部のやせ、吸水むらを生じる可能性があるため、せっこうボードジョイント部のNSフィラーエースが乾燥していることを確認してから下塗りをおこなう。
- ・ NSフィラーエースの施工は、別版の「NSフィラーエース 施工マニュアル」を参照。

### 3. 2. 2 プライマー処理

NSフィラーエースが乾燥していることを確認し、コンクリート・モルタル下地の場合(3.1.2)と同様にプライマー処理としてデコリエプライマー(原液)を塗布する。

### 3. 2. 3 デコリエの塗付け

#### (1) 下塗り

デコリエプライマーの塗布乾燥後、コンクリート・モルタル下地の場合(3.1.3の(1))と同様に下塗りをおこなう。

#### (2) 上塗り

下塗りの締まり具合を見計らい、コンクリート・モルタル下地の場合(3.1.3の(2))と同様に上塗りをおこなう。

### 3. 2. 4 磨き

コンクリート・モルタル下地の場合(3.1.4)と同様に磨きをおこなう。

### 3. 3 石材・タイル下地の場合

石材・タイル下地の場合の施工工程図を図3に示す。

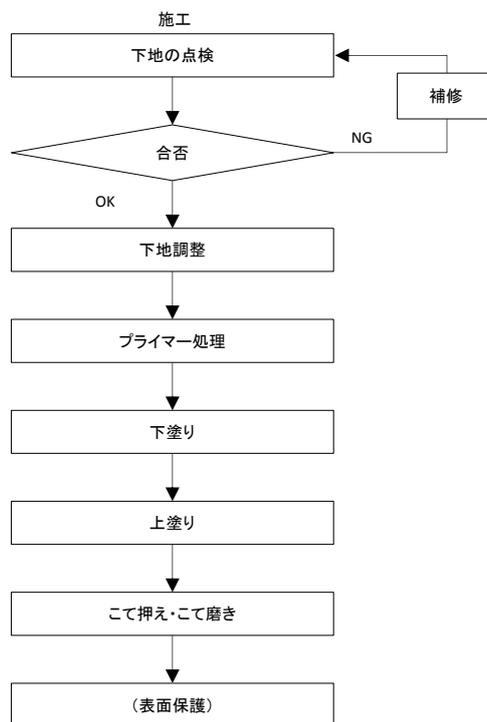


図3 石材・タイル下地の場合の施工工程図

#### 3. 3. 1 下地の点検と下地調整

##### (1) 下地の点検

石材やタイルに浮き等がないことを打診等により確認する。浮き等がある場合は、ダイヤモンドカッターを使用して健全部と縁を切った上ではつり取り、掃除機またはエアブロー等を使用して清掃をする。表層のぜい弱部分はサンダーやワイヤーブラシ等で完全に除去・清掃する。はつり取った部分は事前に補修をおこなっておく。次工程の下地調整で補修を兼ねる場合は略することができる。

また、石材やタイルに浮きや汚れ等がなく健全な場合でも、石材やタイル表面の目荒しは必ずおこなう。

**\* 施工対象面の汚れやレイタンス等のぜい弱部分は、ワイヤーブラシや研磨布を使用して除去し、掃除機やブローを使用して埃やゴミを取り除く。油脂類が付着している場合は、溶剤で拭き取るか、サンダー等で除去する。**

**\* 補修をおこなう場合、施工にあたっては各製品の施工マニュアル等を参照してください。**

##### (2) 下地調整

NSカチオンワンシリーズやNSアートパレシリーズ専用速硬下地処理材ファストベース等により、石材・タイル下地面を処置し下地を整える。下地調整後は、各製品の所定の養生期間を確保する。

**\* 施工にあたっては各製品の施工マニュアル等を参照してください。**

### **3. 3. 2 プライマー処理**

下地調整後、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.2）と同様にプライマー処理としてデコリエプライマー（原液）を塗布する。

### **3. 3. 3 デコリエの塗付け**

#### **（1）下塗り**

デコリエプライマーの塗布乾燥後、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.3の（1））と同様に下塗りをおこなう。

#### **（2）上塗り**

下塗りの締まり具合を見計らい、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.3の（2））と同様に上塗りをおこなう。

### **3. 3. 4 磨き**

コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.4）と同様に磨きをおこなう。

### 3. 4 合板（木）・MDF下地の場合

合板（木）・MDF下地の場合の施工工程図を図4に示す。

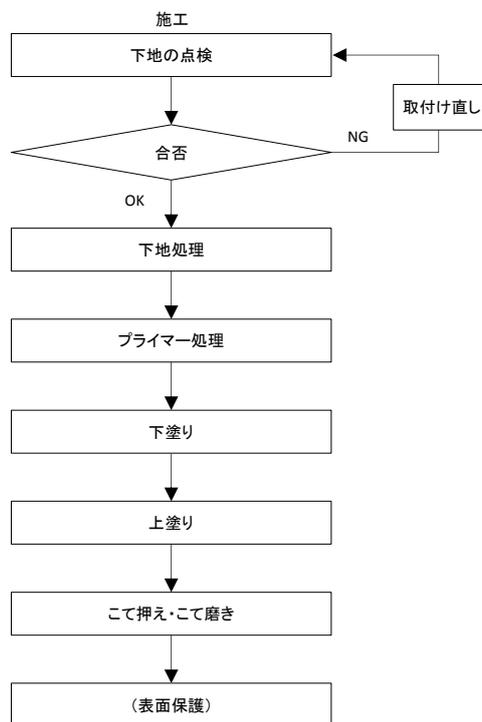


図4 合板（木）・MDF下地の場合の施工工程図

#### 3. 4. 1 下地の点検と下地処理

##### (1) 下地の点検

合板（木）・MDF下地は、せっこうボード下地の場合（3.2.1）と同様に取付ける。不具合および不陸がないことを確認し、不具合がある場合には取り付け直す。また、異物を除去し、**アク止め処置をおこなう。**

ジョイント部分がある場合は、せっこうボード下地の場合（3.2.1（2））と同様にジョイント処理をおこなう。

##### (2) 下地処理

アク止め剤が乾燥した後、**NSフィラーエースを全面に塗り付ける**。NSフィラーエースは**厚さ約1mm**でむらなく塗り付け、しまり具合を見計らい、金ごてで表面のこてむらをとる。

#### 注意事項

- ・ アクによる仕上がり不良を防止するため、必ずアク止め処置をおこなう。アク止め剤の種類によってはアクが収まらない場合があるため、事前に確認をしてから使用する。
- ・ 合板（木）表面にデコリエを施工する前に必ずNSフィラーエースを全面に塗り付け、乾燥させる。
- ・ NSフィラーエースの施工は、別版の「NSフィラーエース 施工マニュアル」を参照。

### **3. 4. 2 プライマー処理**

NSファイラーエースが乾燥していることを確認し、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.2）と同様にプライマー処理としてデコリエプライマー（原液）を塗布する。

### **3. 4. 3 デコリエの塗付け**

#### **（1）下塗り**

デコリエプライマーの塗布乾燥後、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.3の（1））と同様に下塗りをおこなう。

#### **（2）上塗り**

下塗りの締まり具合を見計らい、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.3の（2））と同様に上塗りをおこなう。

### **3. 4. 4 磨き**

コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.4）と同様に磨きをおこなう。

### 3. 5 鉄・ステンレス・FRP下地の場合

鉄・ステンレス・FRP下地の場合の施工工程図を図5に示す。

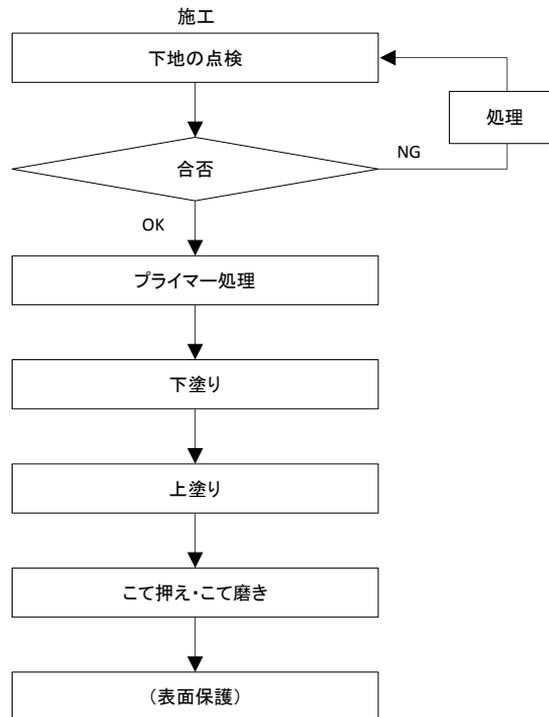


図5 鉄・ステンレス・FRP下地の場合の施工工程図

#### 3. 5. 1 下地の点検

鉄・ステンレス・FRP下地に、さびや異物、油分等の汚れ等がないことを確認し、下地表面の目荒らしをおこなう。

#### 3. 5. 2 プライマー処理

下地調整後、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.2）と同様にプライマー処理としてデコリエプライマー（原液）を塗布する。

#### 3. 3. 3 デコリエの塗付け

##### （1）下塗り

デコリエプライマーの塗布乾燥後、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.3の（1））と同様に下塗りをおこなう。

##### （2）上塗り

下塗りの縮まり具合を見計らい、コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.3の（2））と同様に上塗りをおこなう。

#### 3. 3. 4 磨き

コンクリート・モルタル下地の場合（3.1.4）と同様に磨きをおこなう。

## 4. 表面保護

長期の美観性保護のために表面保護としてデコリエトップコートの使用を推奨する。デコリエトップコートの施工にあたっては、デコリエトップコートの施工マニュアルを参照する。

### 注意事項

- ・ デコリエトップコートを塗布することで、表面の光沢具合や色が変わる場合があるため、予め見本板を作製し、設計・施主等の承認を得る。
- ・ 有機溶剤系であるデコリエトップコートUおよびSを使用する場合は、十分な換気をおこない、呼吸用保護具等の着用のもと作業をおこなう。

## 5. 注意事項

### 5. 1 施工上の注意

- ・ 気温が3℃以下になる場合は、原則として施工を中止するか、適切な保温対策を講じた上で施工をおこなう。
- ・ デコリエが他の仕上げや下地へ付着すると除去することが困難であるため、事前の養生をおこなう。
- ・ 直射日光、通風等の急乾燥につながる環境では、養生シートをかける等の対策を講じる。
- ・ デコリエトップコートUおよびSを施工する場合は、十分な換気処置又は有機ガスマスク等を使用する。
- ・ デコリエトップコートUおよびSの施工後は十分な換気をおこない、有機溶剤が残らないようにする。

### 5. 2 安全上の注意 [応急処置]

- ・ 目に入った場合は、速やかに清浄な水で十分に洗浄し、状況に応じて医師の診断を受ける。
- ・ 皮膚に付着した場合は、付着した部分を水または温水を流しながら石鹸で洗い流す。状況に応じて、医師の診断を受ける。
- ・ 吸引して気分が悪くなった場合は、速やかに空気の新鮮な場所に移動し、水または温水でうがいをする。状況に応じて、医師の診断を受ける。
- ・ 誤って飲み込んだ場合は、多量の水を飲み、吐き出した後、直ちに医師の診断を受ける。
- ・ 目、皮膚および衣類に触れないように適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、マスク等)を着用する。
- ・ 取扱い後は、顔、手、口等は水で洗浄する。

### 5. 3 取扱い上の注意

- ・ デコリエトップコートUおよびSは労働安全衛生法・有機溶剤中毒予防規則および特定化学物質障害予防規則の規制対象物質（U：酢酸ブチル、S：キシレン、トルエン、エチルベンゼン）を含みますので、法規に則した取扱いを厳守する。
- ・ デコリエトップコートUは、湿気硬化型の塗料のため使用分を取り出した後、直ちに蓋を閉めて保管する。
- ・ 容器の破れ、落下がないように荷崩れ防止等に配慮する。
- ・ 降雨等による水濡れ防止に配慮する。
- ・ 漏れた材料は、ウエス、布等でふき取る。

#### **5. 4 廃棄上の注意**

- ・ 未使用の製品、混練材料、器具等の洗浄水を廃棄する場合は産業廃棄物として、適切な処理をおこなう。

#### **5. 5 保管上の注意**

- ・ 開封後の材料は容器内の空気を抜き、できるだけ早い時期に使い切る。
- ・ 製品は凍結の恐れのない風通しの良い所に保管する。
- ・ 材料の製造年月日を確認し、デコリエは6ヶ月以内を目安に使用する。(その他の製品については、各製品のカタログや施工マニュアルを参照のこと。)

製品・商品名	
NSアートパレシリーズ デコリエ	
発行年月日	
初版	2015. 11. 19
改訂1.	2018. 6. 1
改訂2.	2019. 4. 2
改訂3.	2020. 10. 31



発行 日本化成株式会社 営業開発本部 テクニカルサービス

(注)本施工要領に記載されていた内容は、作成時点で入手できた技術情報に基づいており、その内容は、断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。  
製品のご使用に際しては、適切な使用方法と安全対策に注意し、お取扱ください。